



学びと誇りが実感できるまち

～育むべき資質・能力！～

令和3年7月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

向日葵のゆさりともしぬ重たさよ (北原白秋)

大変うれしいニュースの報告です。

6月18日、国の文化審議会が、庄原市高町・宮内町に所在する「佐田谷・佐田峠墳墓群（さただに・さただおふんぼぐん）」を国史跡に指定することを文部科学大臣に答申しました。この墳墓群は、発見以来、約35年もの調査研究の歩みの中で、弥生時代の8基からなる貴重な墳墓群であることが分かってきています。

市民の皆様とともに今回の答申を喜び合い、今後の保存・活用方法をはじめ弥生時代の世界を体験できる企画なども検討しています。

さて、今回は中央教育審議会（令和3年1月26日答申）が「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、「急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力」について触れていますのでその一部を紹介します。

社会背景

子供たちに育むべき資質・能力

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる
「Society5.0時代」
- 新型コロナウイルス感染症拡大など
先行き不透明な「予測困難な時代」
- 社会全体のデジタル化・オンライン化、DX加速の必要性



一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

急激に変化する、予測困難な時代に、私たち一人一人、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われています。目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、まさに、新学習指導要領の着実な実施が強く求められています。さらに、これからの学校教育を支える基盤的なツールとして ICT の活用が必要不可欠となることも述べられています。

こうした現状や答申を踏まえ、子供たちに育むべき資質・能力を培っていきます。また、コロナ禍における「新たな学びについて」どのように展開していくのか研究していくとともに、引き続き、ふるさと庄原の学びや体験を基盤とした力が、いつでもどこにいても、どのような状況にあっても、心の支えとなり原動力となるような教育の創造に力を入れてまいります。